

## 朝鮮の経済発展の現況と中国の北東アジア政策

延辺大学経済管理学院国際経済・貿易系主任、准教授  
李聖華

### 1. 北朝鮮経済発展の現状

金正恩が政権に就いた北朝鮮は、2013年に「核・経済並進路線」をとり、核兵器開発の路線のもとで核実験を続けると同時に、経済分野における経済開発区を相次いで建設し、経済成長を抑制するボトルネックを打破しようとしている。核実験と国際制裁の悪循環に陥ったことは、朝鮮半島、ひいては北東アジアに情勢不安を広げた。2018年の朝鮮半島情勢の緊張緩和により、同年4月、北朝鮮は「並進路線」の偉大な勝利を収め、全力を挙げて新たな経済発展戦略路線を進めることを発表した。現在、北朝鮮は厳しい国際制裁のもとにあり、国家経済発展五カ年計画（2016-2020）に基づき、段階的に国民経済を進展させている。北朝鮮の五カ年経済発展戦略の目標は、人民経済を活性化し、経済部門間のバランスをとり、これによって持続可能な発展のプラットフォームを構築しようというものである。五カ年経済発展戦略の主要な課題は、エネルギー問題の解決、人民経済の先行部門と基礎工業部門の正常な運営、農業と軽工業部門の発展、人民生活水準の向上などである。

五カ年経済発展戦略の実施によって、北朝鮮経済の発展は、一定程度の成果を上げている。電力部門において、送配電網の改築と修繕によって電力損失を節減し、大規模発電所を建設して中小発電所の正常な発電を保障した。石炭と金属鉱業部門において、石炭の採掘と輸送の技術水準を保障し、新たな製鉄方法を導入した。化学工業分野において、化学肥料の生産工程の確立とプラスチック生産の科学技術的な問題を解決した。その他、鉄道、建設、農業と水産などの部門においても一定の成果を収めた。

### 2. 朝鮮半島情勢の変化

2018年、北朝鮮は「ピョンチャン冬季オリンピック外交」を契機として、相次いで南北、中朝並びに米朝首脳会談を実現し、朝鮮半島の情勢は著しく変化した。それまでの核問題、韓国のTHAAD配備の問題、米国の「アジア・太平洋リバランスの問題」のために、北朝鮮ひいては朝鮮半島の情勢は常に不安定であった。そのため、国際政治は依然として冷戦構造における対峙の局面が続いており、経済分野の面において、北東アジア地域内の経済協力は依然として進まない状態であった。

朝鮮半島情勢の緩和並びに北朝鮮経済の健全な発展は、北東アジア地域の域内経済協力を促進する効果をもたらす。とりわけ中国にとっては、北東アジアの「一帯一路」戦略の重要性が著しく高まった。中国の「一帯一路」戦略は、主に、西に向けて開放すると同時に、南に向けても開放していたが、北東アジア地域は「一帯一路」戦略の重点的な協力地域には組み込まれていなかった。北東アジア地域の平和安定は、中国の持続可能な発展を実現するために良好な周辺環境を整備し、「一帯一路」戦略における北東アジアの地位の向上は、域内各国の共同繁栄と地域協力発展を深化させるであろう。また、中国東北地域のいっそうの開放と旧工業地帯の振興という戦略目標の実現に有利となるであろう。

北東アジア地域の「一帯一路」戦略における地位を向上させるために、中国の北東アジア戦略は、以下のような優先課題を実施する余地がある。第一に、ユーラシア大陸の経済協力を積極的に促進することであり、朝鮮半島と欧州を結ぶ物流・エネルギールート建設を通して、北朝鮮の門戸開放と経済発展を促す。第二に、中日韓FTA交渉を加速し、関係諸国が他分野で深い経済協力を通じた共通の利益と相互信頼の関係を醸成する。これにより「一帯一路」の建設を推し進める。第三に、GII地域協力メカニズムの改善を加速させ、北東アジアのサブリージョン協力を強力な組織的メカニズムによる保障を提供する。

[ERINAにて翻訳]